

Q&A 7

問 災害時の主要道路閉鎖等による迂回路の安全対策について

答 維持修繕が必要なものについては随時対応し既存インフラ、道路の修繕工事など総合的に考えていく



美濃明男 議員

豪雨による国道32号などの通行止めにより町道大王下線を迂回路として利用する場合の安全確保、県道磯谷本山線を迂回路として利用する場合の安全対策についてどのように考えているか。

▼下村賢彦町長

道路の管理については、道路パトロールの実施や職員、集落支援員等の通報などにより道路状況の確認、

把握をして維持修繕が必要なものについては随時対応するなど予防保全に努めている。

本年度も維持修繕費を拡充して対応に当たり道路改良については、随時行い安全性を高める方法等も考えが、現状では、既存インフラ、道路の修繕工事に多額の費用を投用しているため総合的に考えていく。

また、県道磯谷本山線などの県管理道路については、安全対策確保や改良などの要望は毎年5月に県議会産業振興土木委員会の皆様を通じて、土木事務所へ要望を行っており、この機会を通じて強く訴えていく。

Q&A 8

問 旧おおよ小学校を有効に活用するための取り組みについて

答 活用方法を検証し進入路の改良について判断していきたい

▼美濃明男議員

旧おおよ小学校を有効

に活用するためには運動場への進入路の整備が不可欠ではないか。

▼下村賢彦町長

小学校の利活用については、新規事業や投資プロジェクトの実現の可能性を検証する包括的な調査を実施したいと考えている。

その結果を受けて活用方法を見いだしたのちに進入路の改良について判断していく。

Q&A 9

問 自伐型林業担い手を確保するためにどのような対策を考えるのか

答 副業的な仕事として活用することで担い手確保につなげる

▼美濃明男議員

自伐型林業の担い手を確保するための支援対策をどのように考えているのか。

▼下村賢彦町長

自伐型林業は、小規模林業に位置付けており、計画の中では「小さな林業」と呼んで、それを推進することとしている。

生業としての自伐林業の方もいるかと思うが、例えばアウトドア事業者が夏場は本来の事業をやりながら秋冬は他県へ仕事を求めて出ていくという部分を副業



旧おおよ小学校進入路

的な仕事で活用できないかと思っている。主に支障木伐採を中心とする里山林等保全事業や生活維持、生活環境の整備である「みんな

Q&A 10

問 国の重要無形民俗文化財に指定予定の碁石茶の推進について

答 碁石茶協同組合からの提案等で支援をしていく

▼美濃明男議員

国の重要無形民俗文化財に指定の予定となっている碁石茶の製造技術など後世

に残すための文化的な価値としての推進や、産業として独自産業化などを推進するため行政としてどのように対応していくのか。

▼下村賢彦町長

碁石茶については、この3月に国の重要無形民俗文化財に指定される予定である。その後の取り組みは、現時点での具体的なものは無いが、指定を受けることで文化的な価値が非常に高まり知名度等も広がると思っている。

まずは、既存の商品等の

パッケージのデザインや文等に重要無形民俗文化財に指定されたということを入れるなど、そういったことを検討していくなかで碁石茶協同組合から提案等があれば支援をしていきたい。

※その他の質問・補助事業の対象者や補助率の考え方についてはあった。

Q&A 11

問 (仮称)嶺北香美ウィンドファーム事業

答 自然との共生は大事である。香美市とは情報共有している



森一芳 議員

この件は、住民55名からの陳情書を受け、総務産業建設常任委員会も、住民の陳情が妥当との回答を出している。また建設予定地直下の5集落からの要望書に続き、住民及び町出身者197名からの署名も提出された。

本件は、過去2回の定例

会で3人の議員が一般質問し、特に昨年6月定例会で町長は、「地域住民の不安が払拭されない限り事業の推進に同意することはできない」と答弁した。

9カ月が経過したが町長の考えは変わらずにいるのか。

▼下村賢彦町長

議員の発言のとおりで現在も思いは変わっていない。

▼森一芳議員

仮に巨大風車が建設され



東庵谷簡易給水施設

た場合、非常に急峻な場所に平地を作らねばならない。集中豪雨があれば土砂災害の発生も考えられる。水質低下で魚類、農業への影響、さらには簡易水道や飲料水供給施設など水源への影響も懸念される。

そしてウターンやタータン、特に移住して来られた方々は「大豊の自然環境、景観が何より好きだ」とよく口にされる。その景観を、高さ180m級の風車が36基も作られたらどうか。

長年住んでいる我々にはその良さがあたり前の風景。しかし彼らは大事な視点を持った本町の素晴らしいところを見てくれている。そんな彼らが好きだと言ってくれるこの景観を守っていくことも町の大切な仕事ではないか。

▼下村賢彦町長

議員ご指摘のとおりであり、地域や自然との共生は必要で大事なことでありと考える。

▼森一芳議員

私は地籍調査で国有林と民地との境界を調査した。巨大風車建設予定地のすぐ下だ。そこでは熊の足跡と熊が木の幹を爪で引っかいた跡を多数見た。四国のツキノワグマは令和4年度調査で最低26頭と発表されているが、私はもっといるのではと感じている。山頂で巨大風車による低周波音が発生すれば有害鳥獣や熊が人里に下りてくることも考えられる。

この事業を推進することによる熊への懸念は、香美市の該当する集落も同じだと思いが、町長は香美市とは何らかの連携を取っているのか。

▼下村賢彦町長

熊や有害鳥獣被害の懸念については、低周波音との因果関係があるのか具体的な公表資料は確認できていない。しかし希少植物群生エリアや緑の回廊等に指定されている場所への設置は

▼森一芳議員

この事業に関する進捗状況を行政としてどこまで把握しているのか。また今年3月ごろとされていた方法書の開示の時期と、事業者と直接連絡を取り合っているのか。

行政も常に関心を持って推移を気に掛けているという態度を示し続けることが大事であるし事業の進捗状況を常に把握、住民とも共有し町の問題として動いていくべきだと考える。

▼下村賢彦町長

現在、町が説明を受けているのは、風況ポールを立てて調査中で、方法書が完成したとは伺っていない。必要に応じて事業者への進捗状況の確認は実施しており、町は事業の実施主体ではないので事業者には住民への丁寧な説明を行うように要請したい。